第３回瀬戸市小中一貫校施設整備委員会会議録

▽日時

平成 28 年 12 月 22 日（木）午後 3 時 00 分から 4 時 50 分まで

▽場所

瀬戸蔵４階多目的ホール

▽出席者（順不同、敬称略）

【瀬戸市小中一貫校施設整備委員会委員】

木村光伸、鈴木賢一、鈴木健二、岡村肇、小澤勝、高島知久、水野富士夫、加藤和守、矢野桂子、加藤吉明、宮村恵美子、加藤髙明、深見和博、牛田和彦

【市】

教育部長 加藤都志雄、経営戦略部長 加藤慎也、経営戦略部参事 涌井康宣、学校教育課長 鈴木勝広　ほか

▽議題等

１　委員長挨拶

２　議事

（１）小中一貫校に係る各種情報の共有について

（２）ワークショップの開催結果について

（３）PTA・地区などにおける意見交換会の開催状況について

（４）瀬戸市小中一貫校施設整備基本構想の骨子（案）について

（５）その他

▽議事内容

１　委員長挨拶

商店街を歩いていると地元のＦＭ放送が、地元の小学校の紹介をしていて、その中で、子どもたちは地域の宝、家の宝という発言があった。私も、学校を考えるという事は地域を考えるという事だとずっと言い続けているが、まず、地域の大人たちがきちんとしていなければならない。子どもは大人の姿を見て育つので、大人がちゃんとやりましょうという事で議論していきたい。

○事務局報告

資料番号１により、委員の交代について報告。
（退任）高橋政志委員　→　（新任）鈴木健二委員

２　議事

（１）　小中一貫校に係る各種情報の共有について

前回委員会の振り返りとポイントの整理に続き、
【資料番号 2】モデル地区における小中一貫校の整備推進本部会議
【資料番号 3】小中一貫校カリキュラム編成
【資料番号 4】教職員の意見集約
【資料番号 5】品野台小学校の現状把握
【資料番号 5-1】小中一貫校の新設に関するアンケート調査
【資料番号 5-2】隣接学校選択制度
について、事務局より説明。

委　　員　　資料４について確認ですが、教職員への周知と意見収集は、全市的に行っているということでよろしいか？

事 務 局　　全市的に実施していく。

委　　員　　１２月の校長会で意見収集をされたということで、疑問点など、どのような話が出ているのかお聞かせいただきたい。

事 務 局　　質問については基本的な事も多く、６・３制や、４・３・２年の枠組みについて、または、施設面ではどのような教室、部屋を作るのかといった内容や疑問点が多かった。

委　　員　　資料５の品野台小学校の検証は、具体的に記載されており、新しい学校づくりに非常に参考になると思うが、用務員さん、校務主任さんの意見、考えも入っているか。

事 務 局　　校務主任は入っているが、用務員は入っていない。具体的には、他に校長や事務職員、長期に勤務している教員などから聞き取っている。

委　　員　　今後のメンテナンス・環境整備を考える時に、用務員さんは色々なことに気が付くと思う。他に、養護教諭さんは、子どもたちの日常生活の細かいところにも目を行き届かせている。設備、施設のメンテナンスに携わっておられる方の意見が参考になってくると思う。

事 務 局　　聞き取りしながら、参考にしていく。

委　　員　　品野台小学校の児童の意見というのは、今後聞いていく予定はある

か。

事務局　これまではまだ聞いていないが、子どもの使い勝手という視点で、子どもたちの意見も参考にさせていただく。

委　員　卒業生の意見を聞いてみるのも良いかもしれない。

委員長　１点だけ気になるが、教職員の周知と意見収集のところで、未だ６・３制のことや、４・３・２の枠組み、どんな施設ができるのかといった質問が出てくるということは、意見聴取の対象が変わってくるから仕方ないところもあるが、もう次のステップに進まないといけない。そろそろ先生方の意識が変わらなければならない。まだ他人事のように捉えているように思えて、残念に感じる。いずれにしても時間がないのですから、迅速に動いていただきたい。

（２）ワークショップの開催結果について

【資料番号6】により、１回目のワークショップの開催状況について、事務局より説明。

副委員長　全４回開催予定のところ、３回が終了している。設計作業のベースとなるよう、教職員や地域の方の考えが集約できるよう進めている。１回目は、新しい学校に対する期待やイメージ的なところを皆さんに話していただいた。２回目は子どもというものをキーワードにして、学校の外部空間、学習の空間、生活の空間ということで、教室や図書室、トイレや食事のスペースなど多様な意見が出ている。３回目は、７つの伝統のある学校を１つに統合する際、各校の伝統や特色ある活動などを、上手く新しい学校に引き継いでもらいたいという考えと、どこにでもある学校ではなく、瀬戸ならではの学校づくりについて、関係者の思いや、キーワードを含めて引き出したいということで開催してきた。

説明にもあったように、大体７～８人の６グループで構成し、皆さんが大変熱心にお話されており、２時間余りのワークショップで、ほとんど発言しないような方は何方もおられない。最後は時間が短いのではないかという感想を書かれている方もいるような状況である。

ただ、懸念するのは、ワークショップに参加している一部の人達だけで盛り上がってしまって、他の住民がついていけないということではいけないので、一緒に参加している研究室の学生にまとめてもらい、この

ようなニュースレターを作成するようにしている。

２回目、３回目の様子は、まだ編集中ということで、この１回目だけを配布したが、順次、作成・配布していきたい。

毎回、委員長にも参加していただいて、講評もいただいており、大変感謝している。

委員長　非常に熱気のある雰囲気で行われており、市民にも、それがうまく伝わるように努めていきたい。まだ４回目が年明けにあるので、一旦の仕上げとして開催していきたい。

委　員　ワークショップでは、様々な立場の方々が各々の思いを発言されているということで、大変大きな思いだと思う。一方、小中一貫校のカリキュラム編成では、教育活動について色々検討が進んでいくわけだが、その編成委員とワークショップ参加者が、何か繋がるような機会や情報のやり取りはあるのか。

委員長　当然、繋がらなければいけないことである。ただ、ワークショップの参加者と編成委員の先生が直接話すということより、それぞれの意見を整理したうえで、設計のベースになるような所で整合させていくことになると思う。

今後の作業になるが、カリキュラムの問題は、学校全体の枠組みとも絡んでくる。どちらかといえば、夢を語る内容をそのままダイレクトに伝えるのはなかなか難しいことであり、設計に向けての事務的な提案作りは、教育委員会や先生の方で進めていくことになるが、そこでの取りまとめについては、任せていきたいと今のところ思っている。

委　員　ワークショップでの意見について、本委員会において、どのように反映していくのか確認しておきたい。

委員長　今、副委員長から３回目までの内容について報告されましたが、次回の整備委員会の方で、４回目も報告させていただく。基本構想の中にどれだけ盛り込めるのかということになるが、詳細については、今日のような報告に留めさせていただいて、それぞれの意見を整理したうえで、構想にどのように活かしたかということを共有していきたい。

副委員長　様々な意見をまとめながら、ワークショップ全体を通して見た段階で、方向性を見つけていく必要があり、もう少し時間を頂きたい。

委　員　ワークショップの意見は本当に参考になる。今回の報告書を見て、それぞれのグループのキーワードが掲げられており、「温かい」だとか、「のびのび」「楽しい学校」などのキーワードに繋がったというのは、とてもありがたいことである。

昨日、祖東中学校区の小・中の校長が集まって情報交換する会があり、その場でも新しい学校に期待することを話す中で、子どもたちの社会性、人間関係作りの力が向上できるような、学校になって欲しいという意見が多く出た。背景には、小規模の良い部分を踏まえても、課題として、それぞれ単学級の小学校ばかりでクラス替えができず、６年間人間関係が固定されてしまうことで、関係に問題が生じたときに、クラス替えによる再出発が現状ではできないということがある。また、人間関係が固定化することで、多くを語らなくても自分の気持ちが分かってもらえるという環境は、素晴らしい面もあるが、逆に初対面の人、新しい人間関係の中で、自分の気持ちをしっかり伝えるというコミュニケーション能力が不足してしまう子もいるのではないかという話もあった。

多くの児童生徒が交われるような環境の中で、人間関係作り、社会性をしっかり育てられるような学校にしていくこと。そういったことをキーワードとして話してもらえたということは良かったと思う。

来年以降もワークショップのような機会があれば、「社会性・人間関係作りなどのため」にというようなテーマで議論していただけたらありがたいと思う。

委員長　私も会場を回りながら色々な人の意見を聞いていたが、学校作りの基本的なテーマから、地域の方、保護者、先生達の経験に基づく話、要望、希望、夢なども含め、毎回テーマを掲げて開催していく中でも、内容は非常に多岐に渡っている。大変な作業であるが、一旦締めくくって、どういうイメージを出していけるのか、皆さんに見せていだたきたいと思う。

委　員　資料３の各研究会の項目に、瀬戸らしさを追求した教育活動云々とあるが、その内容はどのようなものか。

事務局　詳細の活動内容まで決まっていないが、やはり、瀬戸の強みは、地域力、地域の教育力だと最初に考えられる。例えば、これをいかに教育活動に取り入れるかということも考えていきたいと思っている。

委　員　ここに書かれているものは、ある程度、市の方で考え方が決まっているのではないか。

委員長　カリキュラム編成委員会の中の話になるので、市の方で固めてしまう話ではなく、カリキュラム編成委員会のメンバーで議論として語られていることの段階だという事で、ご理解いただきたい。

事務局　瀬戸らしさということで第２次瀬戸市教育アクションプランの中で整理しているのは、キャリア教育、郷土学習、防災教育などであり、前

回ご報告した小中一貫教育の基本構想の中にも示している。

ワークショップに話を戻すが、参加者の感想について紹介する。１回目のところだと、「初回ということもあり、理想を語ることができ、参加者も盛り上がることができました。ただそれらの理想をどう実現していくのか？その方法論を探りたい。」という意見もあり、今、各委員から出ている意見と通じるところであるので、しっかりと整理していきたい。

委員長　ワークショップの中でも「瀬戸らしさ」というキーワードが何度も出てきており、瀬戸らしさといえば焼き物だろうという話が出てくる。しかし、それだけではないだろうという話も出てきて、非常に多様な意見がぶつかり合いながら盛り上がっていく。

これまでも何十年と瀬戸らしい教育について議論されており、焼き物をベースとした話とは別に、キャリア教育とか多様な学校運営とか、その背景にある地域力の向上とか、それらを合わせて瀬戸らしい教育を皆で推進していこうということは、多くの教育関係者の中では合意されていると思っている。

そういった状況はワークショップの中でも感じられるし、そういった背景の中で、次のステップへ進めるものと思っている。

委　員　４回目のワークショップでは、学校と地域がテーマとなっているが、私は、今年立ち上がった教育サポートセンターに勤めており、ほぼ毎日各学校を訪問して、学校と地域との結びつきについて、参加したり意見を聞いたりしている。その中で祖東・本山学区は、地域からの多様な支援があり、まさに地域との関係性が良い地域である。

学習指導要領の中のキーワードの一つに、開かれた教育過程という言葉があるが、次のワークショップのテーマである「学校×地域」では、地域と一緒になって学校の特色を作っていくというスタンスを貫いて話し合って欲しい。人や施設、立地条件など、色々と活用方法があり、いかに活かしていくかはそれぞれ検討する余地はあると思うが、是非とも地域の力を学校に活かす学校づくりを進めて欲しい。

委員長　各地区において、一番の心配ごとは、今まで作り上げてきた学校と地域との関係はこれからどうなるのだろうというところだと思う。新しい学校づくりを考えるうえで、地域の重要性は、皆さんが理解しているところだが、各地区で今まで自分たちが自分たちの学校と思ってやってきた活動、人との関係、子どもへのサポート、地域づくりなど、これまで積み上げられてきたプロダクトがあり、そういうものをベースにしなが

ら次の展開を考えていく。地域に財産として残さなければならないものはきっちり地域に残していく。新しい学校づくりの中で、新しい地域との連携というものは新たに模索していくという、様々なプロセスが１つになって、次なる学校というものが出来上がっていくと思う。ワークショップの中でも、伝統を引き継いでという話と、新しい学校で新しい伝統を作るのだという話が拮抗しており、地元の皆様との話し合いをこれからも深めていかなければならないと思う。

委　　員　　私もこれまでの３回のワークショップを覗かせて頂いた。各地域から保護者世代や、先生、地域の大先輩の皆さんが一堂に会し、また、学生も一緒になって話し合っているのを聞いていると、皆さん瀬戸が好きということを感じる。様々な心配事は意見を聞いていてもあるとは思う。これまでの繋がりと新しい伝統を整合させていくことは難しいことだが、参加者の皆さんが本当に熱く議論している。

見せていただいたニュースレターについても、例えば大きく拡大して市役所に貼り出して、来庁者が誰でも見られるようにすると、地域外の方にも周知が広まって、話題としても広がっていくと思う。また、パルティせとの１階に貼り出すことで、またワークショップやったんだね、新しい学校をつくるときにはこれがいいよね、という声がどんどん出てきて、地域全体で皆さんの想いが、温まり高まっていくと良いと思う。

委員長　　パルティせとにそのようなコーナーを設けても良いし、市役所にあっても良い。ＦＭ放送を通じて、毎日５分間ずつ小中一貫基本構想の話題を扱ってもらっても良いかもしれない。その件については、事務局で良くご検討いただきたいと思う。

（３） PTA・地区などにおける意見交換会の開催状況について

【資料番号 7】により、PTA・地域などにおける意見交換会等の開催状況について、事務局より説明。以後、各地区自治会長より、地区の状況報告。

委　　員　　深川連区では、11 月 17 日に開催した地区の小中一貫校新設委員会と連区で実施したアンケートの結果を踏まえ、特別委員会を設置した。まだ仮称であるが「２１世紀の深川を作る会」という名称で考えている。内容については、小中一貫校、学校跡地利用、土地利用、それに伴うまちづくりを含めた４つの柱を主体として、今後進めていきたい。メン

バーは１３～１５名を予定としており、各種団体、これから入学する若い保護者を含め、来年の春に第１回目を開催する予定で準備を進めている。

委　　員　　東明連区は、すでに地区協議会を立ち上げており、11 月 28 日に第 2 回、12 月 19 日に第 3 回の会合を行った。第 2 回目では、8 月から計 8 回開催した意見交換会で出た課題を抽出し、特に皆さんの課題として大きなものは、通学の問題、安全性の問題だった。市から直線距離で 1.5 km以内は徒歩通学という提案があり、開校までに最低 1 本は安全な通学路を整備して欲しいという話があった。またスクールバスの乗降場所について、県道や幹線道路を渡る時の旗当番という問題が絡んでくるということで、PTA の方にまず検討いただくという話となった。

また、教育の環境、例えば建物は一体型か分離型かどちらが良いのかの議論もあり、飛島学園を視察した際のスライドを流し、一事例として情報共有した。他に、4・3・2 制の中身についても、まだよく分からないという話があったり、インクルーシブ教育の面では、市全体として窓口を一本化して、保育園から中学校、その先まで連携が取れるような体系の一体化、仕組みづくりをやって欲しいという話があった。

第 3 回目では、設置した教育環境委員会と跡地整備委員会で、それぞれ委員会ごとの時間を設け議論した。教育環境委員会は、未就学から中学校の保護者の方がメンバーとなっており、若い方の意見として活発な意見が出たと聞いている。私自身は跡地整備委員会の方に参加し、今の時点で学校の跡地にどのような機能を持たせるのかの意見集約をし、必要性、優先順位を定めて進めていく必要があるということになった。東明小学校は 140 年の歴史があるが、統合によって子どもの存在が地域から無くなってしまう恐れがある。スクールバスで下校してくると、共稼ぎ世帯の子はモアスクールへ行き、より地域の大人たちとの接点がなくなってしまう。どのような仕掛けの中で、地域の各世代が集える場所を、機能を持たせていくのかが１番の課題かと考えている。

ワークショップの中では、皆さん非常に熱心に積極的に発言をして頂いているということで、私共も謙虚に受け止めながら、次に繋がるような方向で皆さんと協議していきたい。

最後に、通学の問題に関しては、東明連区の一つの意見として、1.5 kmの距離にこだわらずに、全校全員をスクールバスで送迎出来る方法は検討できないだろうかということがあった。もちろん、徒歩で歩いて通わせたい保護者や子どもたちの考え方もあるので、それは尊重してい

く。そういう考え方もあって良いのではないかという意見が出ていた。協議会としては、様々な意見を真摯に受け止めながら、地域の足並みを揃えていきたい。

１月の後半に４回目の予定があり、より具体的に、また皆さんの意見を集約していく。

委　　員　　祖母懐連区の祖東中学校、東公園に学校が出来るわけだが、現時点でも通学路としても十分な通学路となっていない。工事するにしても、安全に大型車両が進入できる道路もなく、早く道路整備をして欲しいと市長にもお願いしているが、今のところ具体的な返事はない。道路一本で祖母懐連区の町の形態が変わってくる可能性がある。通学路にも影響するため、市には具体案を示して欲しいと考えている。

委 員 長　　学校本体の中身に係る問題は、それぞれのところで概ね合意をいただきながら、今進んでいるという理解で良いかと思う。ただ、その学校を運営していくため、それぞれの地域ごとの違いというものをきちんと明確にしていくということだが、まずは、子どもたちが安全に通学できるとうことをきちんと保障することが、全ての地域の方々の共通の願いである。市として地域の要望への対応は、早い段階で何らかの表明をしていただかなくてはいけないと思う。ただ、跡地の問題については、少しタイムラグが必要だと思う。跡地利用が取引材料となってしまうのは問題であり、地域にとってより良い形は何かということを、学校づくりの検討と並行しながら、少し後追いで考えていかなければならない。背景要因として考えていきたいと思う。

教 育 長　　これまで、地域に協議会の設置をお願いしてきた。その願いというのは、今まで教育は学校にあったが、教育の当事者というのは、教員であり、保護者であり、地域の人々であり、それぞれに大きな役割があるという思いがある。今回、立ち上げていただいた地域協議会については、地域の皆さんが集まって、どのような教育上の役割があるのか、地域づくり、まちづくりのうえで、どのような役割があるのかというようなことを、改めて話し合うきっかけとなり、この小中一貫校について、地域の中の話題として取り上げてもらうことができた。今後も地域協議会が育っていく中で、開校の３２年度には学校とどのような関係になっているかということが、非常に大きなポイントになる。また、人づくりに関しても重要な基礎の部分であり、永年に渡って運営される大きな組織になっていくと考えている。大げさに言うと、責任が大きく感じられるかもしれないが、皆で作り上げる協議会という思いで、これからも教育委

員会と協力、協働して作り上げていきたい、そんな思いを伝えておきたいと思う。

委 員 長　　大変重要なポイントだと思う。瀬戸では、地域づくり、地域力の話を、本当に長い時間を掛けて盛り上げてきたところだが、残念ながら、あまり子どもが主人公になってこなかったというのが現実だと思う。跡地利用も含め、新しい地域づくりの核を、それぞれの地域協議会で話し合う場合に、今度は子どもが主人公に、子どもに陽の当たるまちづくりという方向にいくのではないか。そうすることで、地域の人達と子どもたちの関係も、もっとうまくいくのではないか。その中で、ご高齢の方々の安心した生活にも繋がるのではないかと思う。今までの地域力のあり方の方向が変わっていく可能性についても、期待を込めて聞かせていただいた。

（４） 瀬戸市小中一貫校施設整備基本構想の骨子（案）について

【資料番号 8】により、基本構想の骨子（案）
について、事務局より説明。

委 員 長　　文部科学省から委託を受けている、小中一貫校施設整備に関する地域との合意形成と、学校づくりに関する構想の骨組みとなるものであり、今後どのように肉付けしていくのか、副委員長の方から説明をお願いしたい。

副委員長　　新しい小中一貫校づくりにあたり、瀬戸市がどういう体制で、何を検討し、成果を導き出すプロセスが記述されていないといけない。この委員会での検討や、ワークショップや地域との意見交換の内容を示していきたい。この骨子案を基に、皆さんの意見を伺いながら修正していきたい。

委　　員　　これまでも、地域・PTA との話し合いやワークショップなどで、真剣な議論が交わされている。とても大切なことで、それを成果として活かすことが、瀬戸らしい小中一貫校づくりに繋がる。取りまとめる基本構想は、来年度以降の設計内容に反映されるわけだが、以前より、瀬戸市は“地域とつながる学校”というテーマを持っており、ハード・ソフトの両面でいかに反映させていくのか議論を深めたい。私は、地域と共に成長していく学校“ということがあり得ると考えている。建設地の緑豊

かで、高低差のある東公園において、どのように展開していくのか、デメリットもメリットに転換できるような形で、地域と互いに刺激し合いながら成長していける場所になると良い。早期に、各地区に立ち上がっている地区協議会と共に検討を進められるようにしたいし、それが新しい学校の歴史にもなる。

委　　員　　PTA では、平成 26 年 3 月に正式に適正配置について要望書を提出させていただいて、現在、基本構想をまとめるところまできた。これまで、合意を得るためのプロセスとして、様々な立場の方が、様々な意見を出し合えるワークショップも開催されている。この先、設計の段階に入っていく中でも、設計される方にとっては大変かと思うが、様々な立場の方の意見を聴取しながら設計を進めていくような場面があって然るべきと考える。

また、開校してからも、地域住民と学校が、常に意見交換しているような状況が、瀬戸の学校のオリジナルになって欲しいと思う。それには、お互いに責任を自覚する必要があるが、例えば、学校評議会でワークショップを行うようなことがあっても良いのではないかと考える。

委　　員　　教育の内容についてが、私の最大の関心事で、施設を新しくしても、授業を変えていかないと意味がない。新しい学校づくりは、夢や希望があり素晴らしいことであるが、学校とは子どもたちに質の高い学びを保証することが最も大切である。そのカギを握るのは教師であり、先生方がどれだけ教育に打ち込める環境になっていくのか、そこが変わらないと良い形で機能していかない。カリキュラムの委員会も立ち上がっているということで、いかにして授業の質を高め、子どもたちの学びが楽しいものになるようにしていくことが重要である。そのような視点で、これからも意見を述べさせていただきたい。

委員長　　基本構想とは言っても、現在は施設整備に向けた方向付けをするための考え方をまとめるもので、可能な限り様々な視点からの考えを詰めていきたい。まだ、教育の構造をどうしていくのかという結論には至っていないし、カリキュラムの詳細についての議論も、まだ始まったばかりである。教育の構造、建物の構造、カリキュラムと３つの議論を同時に進行していく必要があり、最終的にうまく組み合わせることで完成形となる。その中で、地域連携の仕組みを再構築していく必要もある。

この委員会を始める際には、あと４年しかないとお話ししたが、現時点で、あと３年しかない。来年度からの３年間、今現実に学んでいる子どもたちに、どのような教育が保証できるのだろうということも取り組

んでいかないといけないし、そこが出来なければ、新しい学校に繋げていくことはできない。構想の中には様々な思いが詰まっていくと思うが、来年度以降も、この委員会の議論として受け継いでいかなければいけないと考えている。

委　　員　　開校までの期間、いかに現状の授業の質を高めていけるか。もちろん、それは市域全体で取り組まなければならないことで、極端に言えば、明日からでも始めていかなければならない。開校時点での授業の質が、高い水準にある必要があるが、全国の事例を見ても、授業の質というのはそう簡単に変わるものではない。先生の意識、管理職の意識の転換が必要で、この３年間で、いかに取り組んでいくかがとても重要である。

（５）その他

議事なし

３　その他

（事務局）

・次回委員会の協議内容（アンケートの結果、ワークショップの結果、基本構想の素案、そして、来年度の本委員会の進め方）について

・次回の開催予定（平成 29 年 1 月 26 日（木）午後 7 時から 瀬戸蔵 4 階 4・5 会議室）について連絡。

以上